

観音寺小学校サポート隊（香川県）

私たちは四国の香川県からまいりました、観音寺小学校サポート隊です。

私は統括リーダーの高岡令子です。グリーンのポロシャツを着ているのが、サブリーダーの田井敬子と申します。今、私たちが着ているオレンジのベスト、そしてグリーンのポロシャツが私たちのユニフォームとなっています。この度は、発足2年目の私たちにこのような大会で発表させていただく機会をくださり、心から感謝申し上げます。それでは早速、発表に移させていただきます。



活動地域の紹介

私たちの活動地域の紹介を行います。

私たちが活動拠点としている観音寺小学校は、香川県の西の端、観音寺市にあります。校区の北側には琴弾公園をはじめ、砂の芸術と言われている寛永通宝、白砂青松の有明浜などがあり、豊かな自然に恵まれています。観音寺市役所などの公共施設や高校、中学校などの学校施設が点在し、市の政治、教育の中心となっています。また、観音寺市の玄関口である JR 観音寺駅があることから、人の出入りや、児童や学生が多い地区となっています。



団体概要

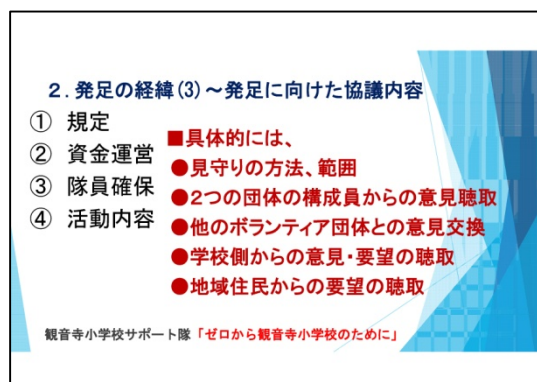
観音寺小学校サポート隊の発足は、小学校の統廃合がきっかけとなっています。それまで、この地域には2つの小学校がありました。1つは132年の歴史を持つ観音寺南小学校、もう1つは60年の歴

史を持つ観音寺東小学校という違った学校文化の2つの小学校が一つとなり、全く新しい場所に観音寺小学校が建設されました。平成26年4月に開校したばかりですが、児童数は今年度567名と、観音寺市内では2番目に大きな規模の小学校となりました。今や小学校の統廃合は全国どこの地域でも行われています。小学校の統廃合に伴うボランティア団体の統合も、避けては通れない問題ではないでしょうか。

観音寺南小学校校区と、観音寺東小学校校区には、それぞれ全く違った歴史、特徴を持ったボランティア団体がありました。当初は、「これまでどおり別々に、自分の地区の子供に対するボランティアを続けていけばいいのではないか」という声があり、全く違う2つの団体を1つにまとめるのは一筋縄ではいきませんでした。2つの団体とも共通していたのが、「地域の子供たちの力になりたい」という思いでした。ですから、新しい歴史をこれから作る観音寺小学校の子供たちのために、私たちボランティア団体も、2つのものをまとめるという考えではなく、「一度ゼロになってからスタート」することにしました。



そこで平成25年8月から、2つの学校の校長、歴代のPTA会長、各地区の自治会長などと何度も協議を繰り返しました。協議をする中で、規定、資金運営、ボランティア隊員の確保方法はもちろんのこと、活動内容の一つ、例えば子供の見守り活動に限って言っても、従来より校区も広く、子供たち自身にとっても通学路が未知の世界となります。そのような状況下での見守りの方法、範囲など、解決しなければならない課題は、協議をすればするほどたくさん出てきました。解決策を模索する中、市内の防犯ボランティア団体の活動方法などを聞いて回ることもありましたが、やはり地区ごとに町、学校、構成員の特色が異なっており、私たちの特色に合ったオリジナルの方法を考えなければ、継続も発展もできないと思い、話し合いが難航することもありました。時には学校側から、ボランティアが学校に出入りし、より多くの子供たちと関わりを持てるように、ボランティアの方法として、ミシンなどの授業のサポート、学校行事へのサポートなどの提案をいただくこともありました。



また、隊員確保については、各地区の回覧板で用紙を配布し、隊員の募集をした結果、これまで登下校サポートをするには足腰に自信がなかったり、朝夕に時間の余裕がなかったりで、子供のために何かはしたいけれど諦めていた方々が「授業や学校行事のサポートだったら私にもできる」とボランティアに積極的に参加してくれるようになり、隊員数を増やす大きなきっかけとなりました。

このようにして、地域の代表の方々と熱のこもった協議、連絡調整、意見交換を何度も行うことで、問題を一つ一つ解決してきました。様々な苦労がありましたが、観音寺小学校の開校式より先に、観音寺市長や観音寺警察署の方を来賓に迎え、私たちサポート隊の発足式を行うことができ、隊員の意識とやる気を高めることができました。そして、観音寺小学校のスタートと同時に「観音寺小学校サポート隊」が発足し、私たちの活動が始まりました。

発足時の隊員数は 115 名でした。しかし、実際のサポート隊の活動や、サポート隊が毎月発行し、児童の家庭に配布する『サポート隊だより』を目にしたり、フェイスブックでリアルタイムに活動内容を広報したことで「これであれば自分でもやれることがある」「身近な人がやっているのだから私もやってみようかな」と思う人が増え、1 年で隊員数は 155 名となりました。

3. 団体概要(1)

◎ 隊員数

- 発足時 115名
- 2年目 155名

で活動中
(平成27年9月現在、平均年齢72歳)

観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

3. 団体概要(2)

■ 加入した隊員の方々の声・・・

- ◆ これだったら自分でもやれることがある
- ◆ 身近な人がやっているのだから、私もやってみよう
- ◆ 子どもと交流することで、元気がもらえそう

過去にボランティアを経験したことの無い方が多数加入！！

観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

しかし、ボランティア活動するためには、どうしても活動資金が必要です。サポート隊を立ち上げるにあたり必要な活動資金については、地元観音寺市の事業主や個人から寄付をしていただきました。地域の中には、現役世代のため、仕事が多忙でボランティア活動に参加することはまだまだ先ではあるけれど、私たちの活動理念に賛同してくださる企業や商店主の方は多数いらっしゃいました。そういった方々を訪問し、サポート隊の趣意書に記名をいただき、賛助金を募りました。

賛助金については、発足年度は約 160 を超える事業主や個人から約 36 万円の支援をいただきました。また、この賛助金募集活動は、普段、小学校と関係を持つ機会の少ない地元企業の方にも、私たちの存在や活動を知っていただく良い機会となりました。今年度は運動会の「うどんバザー」において、約 2 時間でうどん約 800 玉、おにぎり約 600 個を売り、約 7 万円の活動資金を得ることができたことから、賛助金の募集はしませんでした。昨年に引き続き、活動の支援のため自主的に寄付をしていただいている方もおられました。

また、警察や市などの行政機関と密に連携を取ることで、自治体の助成事業などの情報を入手し、今年度

3. 団体概要(2) ～活動資金の獲得～

- ◎ 発足 1 年目
地元観音寺市の事業主や個人から賛助金の募集（約 160 を超える事業主や個人から約 36 万円の支援）
- ◎ 発足～現在
運動会の「うどんバザー」
- ◎ 発足 2 年目
香川県からの防犯活動委託金

うどんバザーの様子

観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

は香川県から防犯活動委託金として 30 万円の委託金を受けました。この収益については、私が今着ているサポート隊のユニフォームのほか、後で述べます「サポート隊から児童へのプレゼント」と題した情操教育の費用としています。

活動（事業）内容・特徴

私たちサポート隊の活動理念は、「保護者や地域が安心して子供を託すことのできる教育環境の整備に向けた活動」と、「学校が子供のために充実した教育活動に専念できるための支援」の2点です。核家族や両親が共働きの家族が増える中、家庭、学校だけではなく、地域全体が協力して子供を安全・安心、かつ健全に育成しようという思いが込められています。

発足当初は活動が手探りの状態でしたので、新1年生の下校ボランティアからスタートさせましたが、次第に保護者や学校の要望を受け、隊員の得意分野を活かせる活動を取り入れることによって、現在、四つの活動チームを作って活動しています。

1つ目が「安全安心サポートチーム」です。このチームは基本的に足腰が強く、登下校時間帯に時間を割くことができる隊員で構成されています。このチームは、新1年生が入学してからの約1カ月間、毎日、新1年生と一緒に通学路を歩き、道路の通行方法や危険箇所の指導を行っています。また、毎月10日、20日、30日の「0」の付く日の登校時には交差点などで立哨し、全ての児童の通学指導や通学路警戒も実施しています。そのほかにも海開き、町探検、季節探しなどの校外学習時の児童の引率などもしています。それらの活動をメインに実施しています。

4 活動内容(2)「安全安心サポートチーム」

◎ 毎月10日、20日、30日の「0の付く日」の登校時、交差点で通学指導や通学路警戒



観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

4. 活動内容(1) ～活動理念～

◎保護者や地域が安心して子どもを託すことのできる教育環境の整備にむけた活動

◎学校が子どものために充実した教育活動に専念できるための支援

観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

4 活動内容(2)「安全安心サポートチーム」

◎道路の通行方法や危険箇所指導



観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

2つ目は「学習サポートチーム」です。このチームは、家庭科のミシン授業、毎年4年生が行う自転車検定、夏と冬に行われる星座観察の補助など、隊員の得意分野を活かし、学校における学習指導の補助を行っています。これには先に述べましたように、足が悪い高齢層や、登下校時間帯に時間をとりにくい主婦層で

4 活動内容(2)「安全安心サポートチーム」

◎「海開き」「季節探し」等の校外学習時の児童の引率



海開きのサポート



季節探しのサポート

観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

も参加できるとして、隊員数を大きく増やすきっかけとなりました。

3つ目は「学校サポートチーム」です。このチームは、メインとして先ほど申しました、運動会のうどんバザーを担当しています。この活動で得た資金は、子供たちに「サポート隊からのプレゼント」として、児童の情操教育に還元しています。昨年は、プロの音楽家を小学校にお呼びし、子供たちに音楽をプレゼントしました。私たちの提案を学校側に受けていただいたことから実現できました。学校側と連携し、お互いに意見を交わすことはとても重要です。私たちのように学校の中に入って活動するためには、学校との良好な関係なくしては実現できません。今年は、10月13日に観音寺南小学校出身のお笑い芸人を呼んで、防犯コントなどをしていただきました。子供たちは、テレビで活躍する遠い世界の芸人が自分たちの身近な先輩から生まれたことに、夢を持つことや、それに向かって努力することの大切さを学ぶことができました。

4. 活動内容(3)「学習サポートチーム」

- ◎ 学習指導の補助



ミシン授業の補助 自転車検定の補助

観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

4. 活動内容(3)「学習サポートチーム」

- ◎ 時間外学習の補助（夏、冬の星座観察）



観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

4つ目は「広報・企画チーム」です。毎月、保護者や地域の方宛てに、サポート隊の活動を写真付きで紹介する『サポート隊だより』を発行し、全校児童の家庭に配布しています。この『サポート隊だより』によって、地域全体に私たちの活動を知っていただき、理解や協力を得ることができましたし何よりもサポート隊自身のモチベーションアップにもつながりました。

また、児童の親世代は、インターネットを利用したSNSに馴染みのある方がほとんどですので、子供たちにどんな行事があって、サポート隊がどんな活動をしたのかなどをフェイスブックを使いリアルタイムに活動を報告することで、親世代に興味を持っていただき、私たちの活動を次世代に引き継ぐきっかけになればと思っています。

4. 活動紹介(4)「学校サポートチーム」

- ◎ うどんバザー等で得た活動資金を子どもたちに「サポート隊からのプレゼント」として情操教育に還元
- ◎ 平成26年はプロの音楽家を呼んで演奏会を実施
- ◎ 本年は観音寺南小学校出身のお笑い芸人を呼んで防犯コントを実施



観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

4. 活動紹介(5)「広報・企画チーム」

- ◎ 「サポート隊だより」の発行



観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

4. 活動紹介(5)「広報・企画チーム」

- ◎ フェイスブックでのリアルタイムな情報発信



観音寺小学校サポート隊「ゼロから観音寺小学校のために」

活動効果

私たちはまだ結成2年目の団体ですので、私たちの活動に理解を示す方が増え、隊員数が増加していることのほかに、大きな活動効果を見取することはできませんが、定期的に反省会や意見交換会を行い、より地域の子供たちに応じた効果の高い活動を目指しています。

また、各種活動に際し、地域の子供から「ありがとう」という言葉をもらうことが何よりも力になりますし、保護者の方からも「1年生の子供の下校は入学後の一番の心配でしたが、サポート隊の皆様がやさしく話しかけてくださり、重いランドセルを背負っての不安な道のりも、あっという間の時間だったようです」「親や先生方とは違ったサポート隊の方々の温かい心に触れることは、子供の成長にとって大きなプラスになると信じています」などの言葉をいただいています。これらの言葉から、隊員全員が地域の絆が深まっていく実感を得られていることが、私たちのモチベーション維持につながっています。

5. 活動効果 (1)

- 活動に理解を示す方の増加に伴う隊員の増加
- 隊員のモチベーション維持
子どもたちからの「ありがとう」という言葉
- サポート隊の活動を通じた地域の絆作り
- 学校からの要望に応じた活動を取り入れることで、良好な関係を維持

地域・学校 相互がWin-Winの関係

観音寺小学校サポート隊

モットー 「ゼロから観音寺小学校のために」

5. 活動効果 (2) 「保護者からの声」

- ◆ 一年生の子どもの下校は入学後の一番の心配でしたが、サポート隊の皆様が優しく話しかけてくださり、重いランドセルを背負っての不安な道のりもあっという間の時間だったようです。

観音寺小学校サポート隊

モットー 「ゼロから観音寺小学校のために」

5. 活動効果 (2) 「保護者からの声」

- ◆ 親や先生方とは違ったサポート隊の方々の温かい心に触れることは、子どもの成長にとって大きなプラスになると信じています。

観音寺小学校サポート隊

モットー 「ゼロから観音寺小学校のために」

今後の課題

今後の課題は、「活動を次世代につなぐ」ということです。私たち世代だけでこの活動は終わらずに発展し続けるために、次世代に活動をつなげることが一番重要な課題です。私たちは、各チームにリーダーを置き、そのリーダーが責任を持って、次世代のリーダーとなる人員を養成しています。

また、地元の特色や時代に応じた柔軟な活動を展開するため、常に学校や保護者の意見に耳を傾けたことで、今年度内には青色防犯パトロールを開始することになっています。これには、観音寺市から車両1台を貸与していただく予定で、自治体からも大きな支援があります。

また、隊員確保のため、学校や地元企業に協力していただき、サポート隊の理念や活動を知ってもらうため、サポート隊の勧誘VTRを作成しました。このVTRは県内教育機関や校区内の家庭に配布するため、学校が作成する観音寺小新聞にスマホのカメラをかざせば、自動的にスマホの液晶画面にVTRが流れるというものであり、このように今の時代だからこそできる勧誘方法も取り入れています。

それでは最後に勧誘VTRの中から、私たちサポート隊が活動の基盤としている観音寺小学校の校歌

をお聞きください。

(動画開始)

(校歌開始)

泣いてもいい強くなれ！

諦めないで 顔上げて

わくわくする冒険が

僕らを待っている

手と手 重ね合えば

勇気が湧くのが友達さ

明日 笑顔で会おう

観音寺小学校

意地っ張りも 泣き虫も

さみしがりも甘えん坊も

ドキドキする 冒険に

旅立つ時が来る

手と手 繋いで行こう

「きっとできる」と励まして

いつも 僕らがいる

観音寺小学校

君の片手は 泣いている

誰かを助けるためにある

もう一つの手は 負けそうな

自分支える ためにあるんだ

その手の力を信じて

手と手 繋いで行こう

喧嘩をしても友達さ

明日 素直になろう 観音寺小学校

明日 笑顔で会おう 観音寺小学校

(校歌終了)

いかがだったでしょうか。この校歌のタイトルは『手』です。多くの学校の校歌には自然や地域が盛り込まれたものが多いと思いますが、私たちの観音寺小学校の校歌は子供の心が描かれた心情歌です。最後のサビの部分には、私たちの一方の手は泣いている誰かを助けるために、もう一つの手は負けそうな自分を支えるためにあるんだというフレーズがあります。私たちサポート隊の信条ともつながります。

(動画終了)

この校歌が何十年、何百年と続くように、私たちの活動も長く続けていくよう、これからも地域が

6. 今後の課題

- ◎ 次世代につなぐ活動
各サポートチームにチームリーダーを任命
 - ◆チーム内に次世代のリーダーとなる人材を養成
 - ◆活動を発展させるため、学校や保護者の意見を反映
- ◎ 青色防犯パトロール活動の開始
観音寺市が車両1台を貸与してくれるという自治体からの支援を活用
- ◎ 勧誘VTRを利用した隊員確保

観音寺小学校サポート隊 モットー 「ゼロから観音寺小学校のために」

7. サポート隊の心情

◎観音寺小学校の校歌をお聞きください

観音寺小学校サポート隊 モットー 「ゼロから観音寺小学校のために」

支える学校づくりの推進に向けて頑張ります。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

●質問 子供の安全・安心の活動のみならず、学校にもかなり入り込んで活動されていますが、PTAとの連携はありますか。

○回答 私たちが『サポート隊だより』を出すように、学校も『学校だより』を出しています。学校は、その下の部分に必ず、親からのご意見というものをいただいています。その中で、学校の方針などに希望を書くことが多いのですが、昨年度の後半から、サポート隊に対してのメッセージをたくさんいただくようになりまして、我々としても保護者の方から「こういうふうにありがたがっておられるんだな」ということと「こういうことをもっとやってほしいのだな」ということが分かりました。それで、私たちサポート隊の役員とPTAの役員で、学校も交えての話し合いをしながら、進めています。